

令和3年度

津市PTA連合会

中学校部会 交流会 報告書



[開催日時] 令和3年6月27日(日) 13:30 ~ 16:00

[開催場所] 津市安濃中公民館

ごあいさつ

津市 P T A 連 合 会
会 長 木原 剛弘

平素より、津市 P T A 連合会の活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今までに体験したことのないコロナ禍と呼ばれる事態のなか、各地区において子どもたちのための活動を行っていただいていますことに心から敬意を表します。

長期化する新型コロナウイルスとの戦いは、子どもたちの健康面、精神面に影響を与えているのではないかと心配をしています。また今年度より、一人一台タブレット端末を用いた学習がスタートし、まさに学校教育のあり方が大きな転換期を迎えています。こんな時だからこそ、われわれ P T A が情報を共有し、各家庭、学校、地域をつなぎ合わせ、子どもたちのために課題解決にむけ取り組むことが必要であると考えています。

今年度も 6 月に開催しました中学校部会交流会の報告書を発行させていただきました。この報告書を基に、各地区の課題や取り組みを広く共有いただき、それぞれの地区での活動のヒントとなりますことを、ご期待申し上げます。

津市 P T A 連合会では、「つながろう P T A ! 子どもたちの輝く未来のために」のスローガンのもと、より一層の情報共有に努めてまいります。引き続き、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、中学校部会交流会の開催にご尽力いただいた部員のみなさまをはじめ、ご多忙のなかご出席いただきましたみなさまに厚くお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

津市 P T A 連 合 会
中学校部会担当 副会長 谷本 有司

平素は津市 P T A 連合会中学校部の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

6 月に開催しました中学校部会としては今年度の初めの事業となる交流会には、ご多忙の中、多くのみなさまにご出席いただきました。改めまして、厚くお礼申し上げます。

今年も、新型コロナウイルスの影響で各校とも、このコロナ禍の対応に追われ、活動もままならない状況であると理解しております。

この交流会においても通年の形ではなく、新型コロナウイルス感染症対策の中、開催規模を縮小した異例な形での開催となりましたが、津市内 2 1 校の中学校が揃い話し合いの場を持てた事は、大変有意義な事業になったと思っております。

交流会当日は、「コロナ禍での P T A 活動！できたこと！変わったこと！」をテーマに、全体会では、津市教育委員会事務局を講師に招き、コロナ禍で加速する I C T 教育「G I G A スクール構想について」の説明を受けました。そして分散会では、学校規模に応じてグループに分かれていただき、役員選出方法やコロナ禍での P T A 活動等の実例が紹介され、大変有意義な時間となりました。

コロナ禍の今だからこそ、「ヨコのつながり」が必要だと考えておりますので、この機会を交流会一回だけで終わらせるのではなく、みなさんと共に考え、行動できるよう、情報共有の「場」を今後も継続して提供できるよう努めてまいります。

最後に、中学校部会の活動に対しまして、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

グループA

参加中学校：橋北中、久居中、朝陽中、久居東中 / 参加人数：4名
司 会：福徳 佳子
記 録：渡邊 豊明

■各行事について

- ・行事が中止になっている
- ・授業参観は、久居中学校は行われている。それ以外は中止。
- ・体育祭は、久居中学校は行われている。それ以外は小規模または中止。

■スマホの問題について

- ・グループLINE等が多い。
- ・常に手に持っている。
- ・いじめにつながる。

■AI、Society 5.0 . . . これからが怖い。

■タブレット → 先生によって使い方が違う。

■各学校の部活動の状況

- ・一時期、市外で試合が出来ていなかった。
- ・バレー部、7年できていない。
- ・バレー部、バトミントン部が無い学校がある。

■役員決め方

- ・立候補、くじ（小学校区ごと）。
- ・任期中に仲間探し（知り合い）→ 変えたい。
- ・会長決めは、地区ごとのところあり。

■本部役員会

- ・月1回くらい、19：00～（働いていると厳しい）、19：30～。
- ・会長選び → 男性になるケースが多い。
- ・役員会は、学校によって温度差あり
(やる必要があるのか、やる気ある人となない人、、、など)

■PTA役員になって良かったこと

- ・学校に入れる 先生と直接会えること

■まとめ（今後に活かしていける、展開していけそうな事項など）

- ・校長先生を交えて、各学校の温度差、違いを改善できないか話し合う
- ・PTA活動減らす、本来のやることは？
- ・意見交換、面倒だったが来てみると意見が聞けて良かった。

グループB

参加中学校：一身田中、橋南中、附属中、一志中 / 参加人数：4名
司 会：中野 明子
記 録：原田 真帆

■ コロナ禍での行事

- ・総会は全ての中学校で書面決議。
- ・体育祭の保護者の観覧
- ・橋南中 . . . 3年生の保護者のみ
- ・一身田中 . . . 1名のみ
- ・一志中 . . . 規定なし
- ・附属中 . . . 9月に開催予定（熱中症対策あり）。
- ・修学旅行の延期 . . . 附属は沖縄から和歌山へ変更。
- ・職場体験は無し。
- ・附属中は、校外学習はあり。

■ スマホ、携帯の所持

- ・親と使い方を決める。
- ・ダイニングで使う。
- ・1日の使用時間を決める。
- ・一志中のPTA本部は、一日30分は見ない時間を決めて、一週間まとめてその30分で何をしたのかを先生に報告するようにしたらどうかと学校に提案。
- ・橋南中は、21時～22時の一時間、スタディタイムとして、ノーメディアの取り組みをしている。

■ 通学路の交通安全

- ・一身田中 . . . 年8回、地区委員が挨拶運動。
- ・一志中 . . . 旗当番を保護者で行っている。

■ まとめ（今後に生かしていける、展開していけそうな事項など）

- ・コロナでもやれることを考える。

グループC

参加中学校：西橋内中、南郊中、南が丘中、西郊中、豊里中 / 参加人数：5名
司 会：米澤 江美
記 録：小林 愛子

■ コロナ禍での P T A 活動

- ・総会は書面決議。
- ・体育祭や部活の大会などは P T A が受付、検温。
- ・親が出る P T A 活動はなし
(環境を知るために、P T A でネット状況をアンケート取った)
- ・ W E B 会議 (ズーム)。
- ・挨拶運動。
- ・マスク 1 0 0 0 枚作成。
- ・フィルター交換。
- ・マウスシールド配布。
- ・参加できない合唱コンクールの D V D 作成など、子どものために出来ること
- ・ P T A 活動に参加するのも大変
→ みんなどうやって時間を作っているのか
- ・自分の子どものご飯を作るのも大変
→ P T A 活動は自分の子どもを含めての活動

■ 次回のテーマ

- ・ G I G A スクールのこと
- ・ネット環境

グループD

参加中学校：久居西中、白山中、芸濃中 / 参加人数：4名
 司 会：石田 昌克
 記 録：東原 章文

テーマ：コロナ禍でのPTA活動！ 出来た事 出来なかった事

■PTA役員決め

- ・芸濃中は、ローテーションで地区ごとに役割が決まっている。くじ引きが多い。
- ・白山中は、地区ごとでローテーションがあり、役割が決まっている。くじ引きが多い。
- ・久居西中は、地区ごとで人選し、くじ引きが多い。
- ・地区で人数が少ない場合、登校拒否はいないか？
- ・学校側のスクールカウンセラー等の対応で、PTAとの連携はあまり取れていないのではないか？
- ・人間関係の作り方、コミュニケーション能力の向上や育生が課題。

■行事についてとコロナ対策

- ・芸濃中 体育祭は保護者の観戦もOKで、密にならないようにして実施。
- ・白山中 体育祭、種目別で時間を案内し、保護者1名のみでの観戦可能。
- ・久居西中 体育祭の保護者観戦は無し。

■GIGAスクール構想、ICT教育について

- ・親を感じる良い点と悪い点
- ・時間と距離の短縮（良い点）
- ・字を忘れていないか（課題）
- ・辞書を引かない（課題）
- ・タブレットの活用について？
日常生活の中でスマホが手放せない生活のため、いかに学校現場と家庭において情報リテラシーを向上させる。リアリティのある場づくりが必要であると感じる

■熱中症対策

- ・夏場だけスポーツ飲料OKというのはどうなのか、通年ではダメなのか？

■通学路の危険個所について

- ・毎年要望を挙げるが、事故が無いと対応しないのか？予防（事故予防）にならない。

■部員の方が感じる学校の課題

- ・地区PTAでの中学校と小学校の連携が弱い

■まとめ（今後に生かしていける、展開していけそうな事項など）

- ・学校とPTA、情報リテラシーを向上させる場づくりが必要。
- ・コロナ対策とPTA、学校の行事の運営や保護者の参観の在り方の情報共有をしたい。
- ・各校区のPTAでの中学校と小学校の連携（具合的な連携）が弱いと感ずるため、継続した話をしてみたい。

グループE

参加中学校：東橋内中、香海中、みさとの丘、美杉中 / 参加人数：4名
司 会：富田 亜弥
記 録：高山 和彦

■ 昨年で出来たこと、出来なかったこと

- ・何も出来なかった。
- ・みさとの丘学園・・・ 体育祭は規模を縮小して実施。
- ・美杉中学校・・・ 体育祭は午前中で実施。
- ・香海中学校・・・ 体育祭は午前中で実施、PTA行事は無し。

■ G I G A スクール構想

- ・基礎を学べるため、今のうちにその点のスキルを身に付けて欲しい。

■ 部活

- ・半日、2校までで行う。
- ・親の見学も基本禁止（3年生の親だけでも見学できないものか）。

■ 修学旅行

- ・全校6月を延期、9～10月を予定。香海中は9月に四国を予定。
- ・みさとの丘 → 岡山予定を延期、10月予定。
- ・香海中 → 6月延期、9月に四国を予定。
- ・東橋内中、美杉中も6月の予定を延期した。

■ スマホの所持、SNSのいじめ

- ・ほとんどが持っている。SNSによるいじめは今のところ聞いていないが、小さいいざこざはあるように感じる。

■ まとめ（今後にかかしていける、展開していけそうな事項など）

- ・オリンピック後、感染者が増えると思われるので、もうしばらくは、自粛しながらの学校行事をしていくと思われる。知恵を絞っていく必要がある。

参考資料

【 交流会 全体会 】

「G I G A スクール構想について」

津市教育委員会事務局

配布資料

津市P T A 連合会交流会

津市G I G Aスクール構想に基づく 今の学校教育について

津市教育委員会事務局
教育研究支援課
教育研究・情報教育担当

今日のながれ

1

- ①はじめに
- ②新学習指導要領について
- ③津市G I G Aスクール構想について
- ④おわりに

およそ10年ごとに、学校で学習する内容は変わっています。



社会人になったとき、必要な力は何かを考え、国が、学校で学習する内容を決めています。



10年前の2011年
 小学5・6年生に「**外国語活動**」が創設
 20年前の2002年に「**総合**」が新設
 30年前の1992年に「**生活**」が新設

津市 GIGA スクール構想による1人1台端末の活用

新しい時代に必要な資質・能力、「学びの向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の習得をめざし、児童生徒が「自ら考え主体的に行動できる力」を育成するためのツールとして活用する。

「教える」



インプット中心



「学びとる」



アウトプット中心

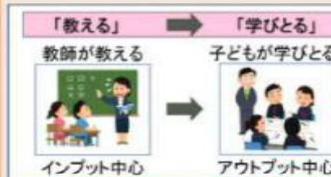
「新時代の学び」に向けた1人1台タブレット端末の活用について ～ 教師編 ～

目的

新しい時代に必要な資質・能力「学びに向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の習得を目指し、児童生徒が「自ら考え主体的に行動できる力」を身に付けるためのツールとして活用すること。



タブレットを活用して授業観の変革・授業改善を



主体的・対話的な学びによる資質・能力の育成

個別最適化された学びによる基礎学力の育成

子どもによる効果的なICT活用 ⇒ 「主体的・対話的で深い学び」の実現

自分たちで撮影・録画できる。



観察・実験の写真、音読の録音、技能の動画を共有する。

考えや資料をもとに話し合える。



ロイノートで、考えをアウトプットし、共有する。

自分の考えを整理できる。



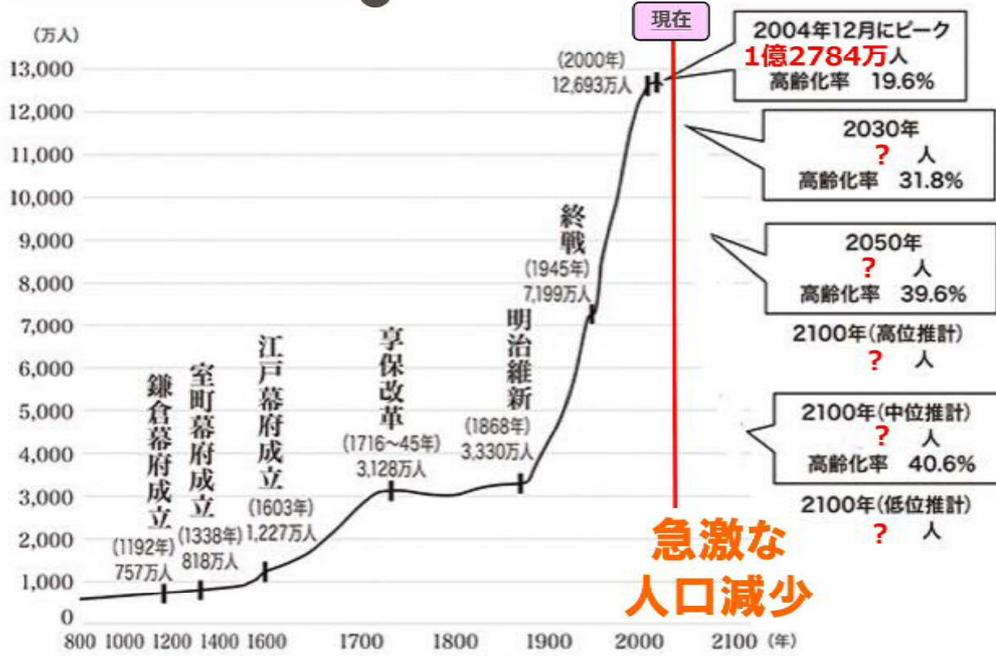
シンキングツールを使って、考えを整理する。

様々な方法で試行錯誤できる。



横のペアで、タブレット端末を操作しながら考えを深める。

日本の人口予測



2020年1月1日時点の人口
1億2713万人

日本人は前年から50万人減の
1億2427万人

80年後の2100年の
日本の人口は？

- ① 8000万人以上
- ② 6000万人以上
8000万人未満
- ③ 6000万人未満

日本の総人口の長期的トレンド

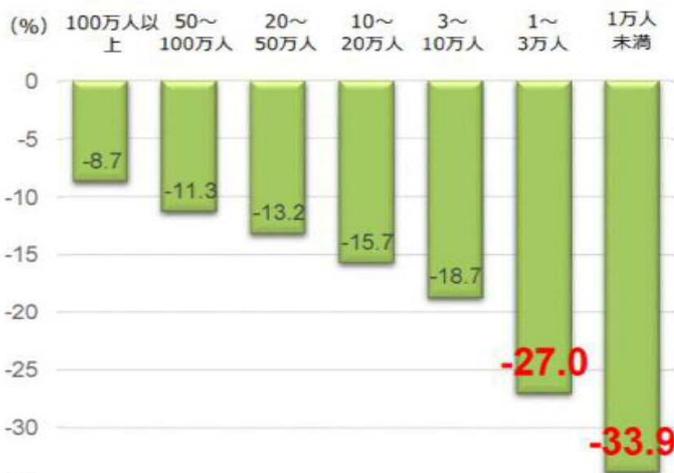
(出所) 総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間補正人口」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

人口減少、生活水準の低下は、地方においてより深刻

● 自治体の人口減

- ・1~3万人、1万人未満の自治体は、**人口減少率が相対的に大きい**

【市区町村の人口規模別の人口減少率】
(2040年人口の2015年比(%))



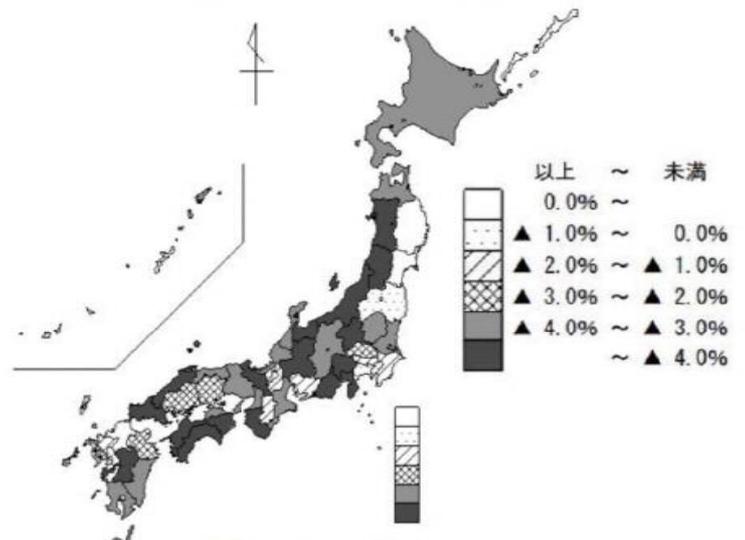
出典:総務省

「自治体戦略2040構想研究会(第1回)」事務局提出資料

● 地域経済の縮小

- ・地方において、休廃業等による**事業所数減少が顕著**
- ・地方の公共交通機関等の**公的サービスが減少**

【都道府県別事業所数増減率】
(平成24年→平成28年の比較)



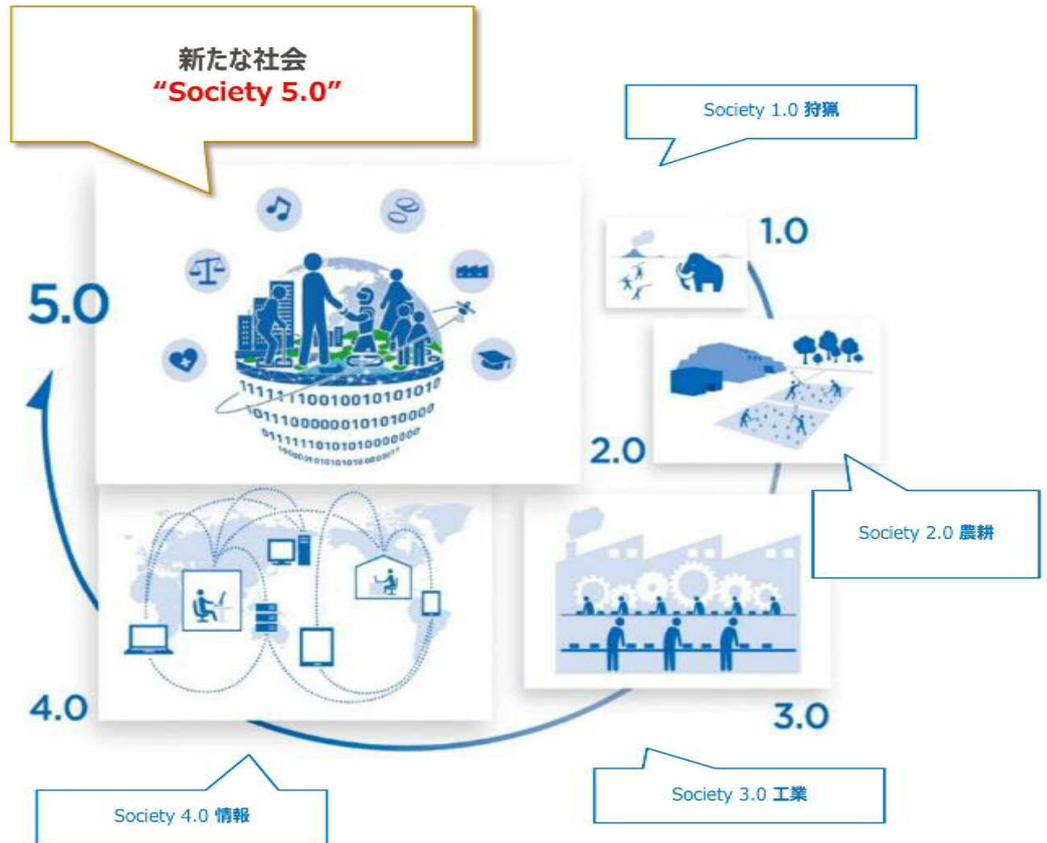
出典:総務省・経済産業省

「平成28年経済センサス活動調査(速報)」

Society5.0の到来

進化した人工知能 (AI) が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来 (第4次産業革命) が、社会や生活を大きく変えるとの予測。

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会であるSociety 5.0の到来が予想。



【出典】内閣府ホームページ等より作成



学習指導要領改訂の背景

新しい価値やサービスが創出され、人々に豊かさをもたらす新たな社会Society5.0の到来
⇒ くらしやはたらき方も変わる

来るべき未来の予測

「今後10年～20年程度で、**半数近くの仕事が自動化される可能性が高い**」

マイケル・A・オズボーン准教授：※英・オックスフォード大学

「人工知能の発展で2045年以降は人間の脳では予測不可能な未来が到来する」

レイ・カーツワイル：※米 発明家、未来学者

“今、学校で教えていることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか”

“人工知能の急速な進化が、人間の職業を奪うのではないか”といった不安の声

予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育む学校教育の実現を目指す。

学習指導要領改訂の方向性

学習指導要領改訂の背景

9

人工知能でロボット等による代替可能性が高い約100種の職業

- | | | | | | |
|-------------------|----------------------|---------------------|---------------|----------------|----------------|
| ・ I C生産オペレーター | ・ 一般事務員 | ・ 鋳物工 | ・ 医療事務員 | ・ 受付係 | ・ 通信機器組立 |
| ・ 修理工 | ・ 駅務員 | ・ N C研削盤工 | ・ N C旋盤工 | ・ 会計監査係員 | ・ 加工紙製造工 |
| ・ 貸付係事務員 | ・ カメラ組立工 | ・ 機械木工 | ・ マンション等管理人 | ・ 銀行窓口係 | ・ C A Dオペレーター |
| ・ 給食調理人 | ・ 教育事務員 | ・ 行政事務員 (国県市町村) | ・ 銀行窓口係 | ・ 金属熱処理工 | ・ 金属加工 |
| ・ 金属製品検査工 | ・ 金属研磨工 | ・ 金属材料製造検査工 | ・ 金属熱処理工 | ・ 金属プレス工 | ・ 金属プレス工 |
| ・ クリーニング取次店員 | ・ 計器組立工 | ・ 警備員 | ・ 経理事務員 | ・ 検取検品係員 | ・ 検針員 |
| ・ 建設作業員 | ・ ゴム製品成形工 (タイヤ成形を除く) | ・ 紙器製造工 | ・ 自動車組立工 | ・ 梱包工 | ・ サッシ工 |
| ・ 産業廃棄物収集運搬作業員 | ・ 人事係事務員 | ・ 新聞配達員 | ・ 診療情報管理士 | ・ 自動車塗装工 | ・ 出荷発送係員 |
| ・ 塵芥収集作業員 | ・ 製パン工 | ・ 製粉工 | ・ 製本作業員 | ・ 水産ねり製品製造工 | ・ スーパー店員 |
| ・ 生産現場事務員 | ・ セメント生産オペレーター | ・ タクシー運転者 | ・ 繊維製品検査工 | ・ 清涼飲料ルートセールス員 | ・ 惣菜製造工 |
| ・ 石油精製オペレーター | ・ 宝くじ販売人 | ・ タクシー運転者 | ・ 宅配便配達員 | ・ 倉庫作業員 | ・ 惣菜製造工 |
| ・ 測量士 | ・ 通信販売受付事務員 | ・ 通信販売受付事務員 | ・ 積卸作業員 | ・ 鍛造工 | ・ 駐車場管理人 |
| ・ 通関士 | ・ 電子計算機保守員 (IT 保守員) | ・ 電子計算機保守員 (IT 保守員) | ・ 電子部品製造工 | ・ データ入力係 | ・ 電気通信技術者 |
| ・ 電算写植オペレーター | ・ バイク便配達員 | ・ バイク便配達員 | ・ 発電員 | ・ 電車運転士 | ・ 道路パトロール隊員 |
| ・ 日用品修理ショップ店員 | ・ 物品購買事務員 | ・ 物品購買事務員 | ・ プラスチック製品成形工 | ・ 非破壊検査員 | ・ ビル施設管理技術者 |
| ・ ビル清掃員 | ・ 貿易事務員 | ・ 包装作業員 | ・ 保管管理係員 | ・ 保険事務員 | ・ プロセス製版オペレーター |
| ・ ボイラーオペレーター | ・ ミシン縫製工 | ・ ミシン縫製工 | ・ めっき工 | ・ 麺類製造工 | ・ ホテル客室係 |
| ・ マシニングセンターオペレーター | ・ 有料道路料金収受員 | ・ レジ係 | ・ 列車清掃員 | ・ レンタカー営業所員 | ・ 郵便外務員 |
| ・ 郵便事務員 | | | | | ・ 路線バス運転者 |

出典：野村総合研究所 2015年12月2日

人工知能でロボット等による代替可能性が低い約100種の職業

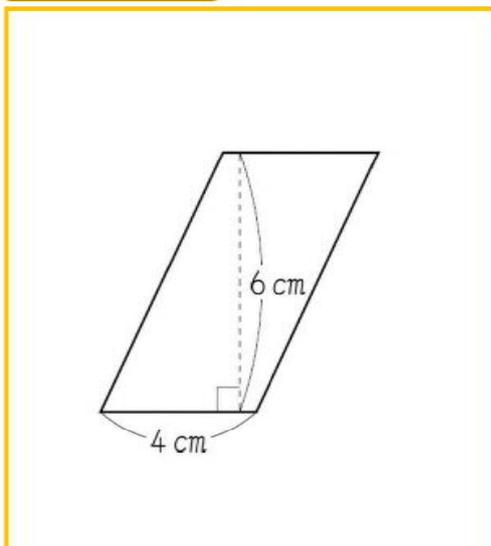
- ・アートディレクター
- ・インテリアコーディネーター
- ・学芸員
- ・ケアマネジャー
- ・工業デザイナー
- ・作曲家
- ・シナリオライター
- ・柔道整復師
- ・助産師
- ・スポーツライター
- ・中小企業診断士
- ・テレビカメラマン
- ・バーテンダー
- ・フードコーディネーター
- ・ペンション経営者
- ・マーケティングリサーチャー
- ・幼稚園教員
- ・レストラン支配人
- ・アウトドアインストラクター
- ・インテリアデザイナー
- ・学校カウンセラー
- ・経営コンサルタント
- ・広告ディレクター
- ・雑誌編集者
- ・社会学研究員
- ・ジュエリーデザイナー
- ・心理学研究者
- ・声楽家
- ・ツアーコンダクター
- ・テレビタレント
- ・俳優
- ・舞台演出家
- ・保育士
- ・漫画家
- ・理学療法士
- ・録音エンジニア
- ・アナウンサー
- ・映画カメラマン
- ・観光バスガイド
- ・芸能マネージャー
- ・国際協力専門家
- ・産業カウンセラー
- ・社会教育主事
- ・小学校教員
- ・人類学者
- ・精神科医
- ・ディスクジョッキー
- ・図書編集者
- ・鍼灸師
- ・舞台美術家
- ・放送記者
- ・ミュージシャン
- ・料理研究家
- ・アロマセラピスト
- ・映画監督
- ・教育カウンセラー
- ・ゲームクリエイター
- ・コピーライター
- ・産婦人科医
- ・社会福祉施設介護職員
- ・商業カメラマン
- ・スタイリスト
- ・ソムリエ
- ・内科医
- ・美容師
- ・フラワーデザイナー
- ・放送ディレクター
- ・メイクアップアーティスト
- ・旅行会社カウンター係
- ・犬訓練士
- ・エコノミスト
- ・クラシック演奏家
- ・外科医
- ・作業療法士
- ・歯科医師
- ・社会福祉施設指導員
- ・小児科医
- ・スポーツインストラクター
- ・大学短大教員
- ・日本語教師
- ・評論家
- ・フリーライター
- ・報道カメラマン
- ・医療ソーシャルワーカー
- ・音楽教室講師
- ・グラフィックデザイナー
- ・言語聴覚士
- ・作詞家
- ・児童厚生員
- ・獣医師
- ・商品開発部員
- ・中学校教員
- ・デスク
- ・ネイルアーティスト
- ・ファッションデザイナー
- ・プロデューサー
- ・法務教官
- ・盲聾養護学校教員
- ・レコードプロデューサー

出典：野村総合研究所 2015年12月2日

学習指導要領改訂の背景

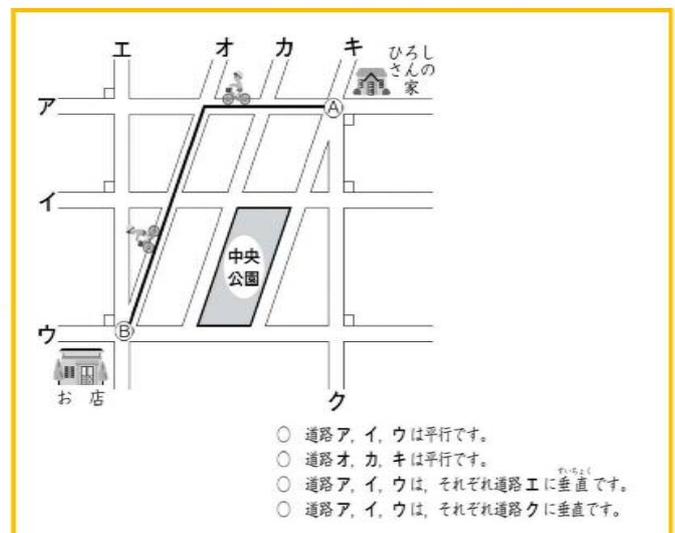
H19 全国学力・学習状況調査より

A問題



A問題：正答率 %

B問題



B問題：正答率 %

「情報活用能力」

情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な力

A 情報活用の実践力

- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

B 情報の科学的な理解

- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

C 情報社会に参画する態度

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

【具体例】

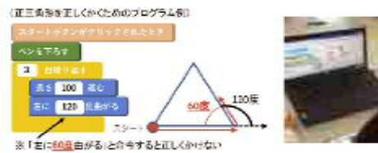
●ICTの基本的な操作、情報の収集・整理・発信

(文字入力、インターネットなど情報手段の適切な活用等)



●プログラミング

(コンピュータの仕組みの理解等)



●情報モラル

(情報発信による他人や社会への影響、危険回避等)

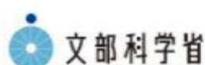


G I G A スクール 構想 について

GIGA スクール 構想の実現へ

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、
資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ



多様な子供たちを

誰一人取り残すことなく、

子供たち一人一人に

公正に個別最適化され、

資質・能力を一層確実に育成できる

教育ICT環境の実現へ

G

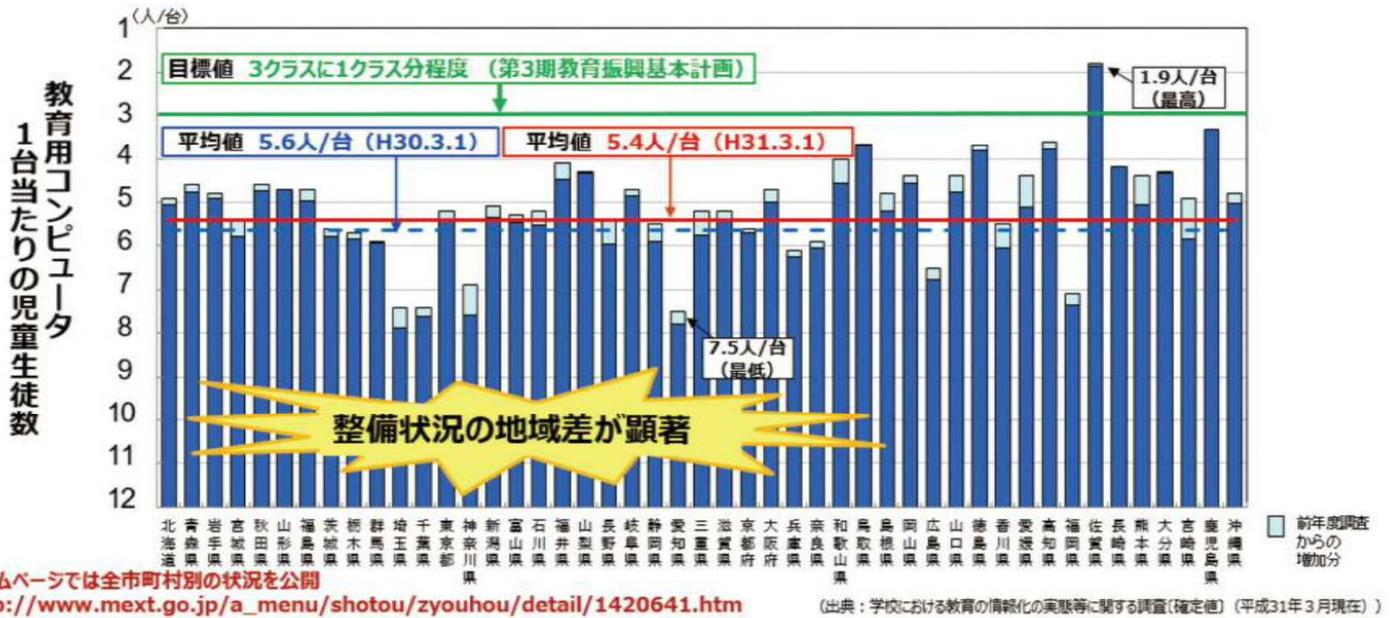
I

G

A

1 学校のICT環境整備状況は脆弱かつ危機的な状況

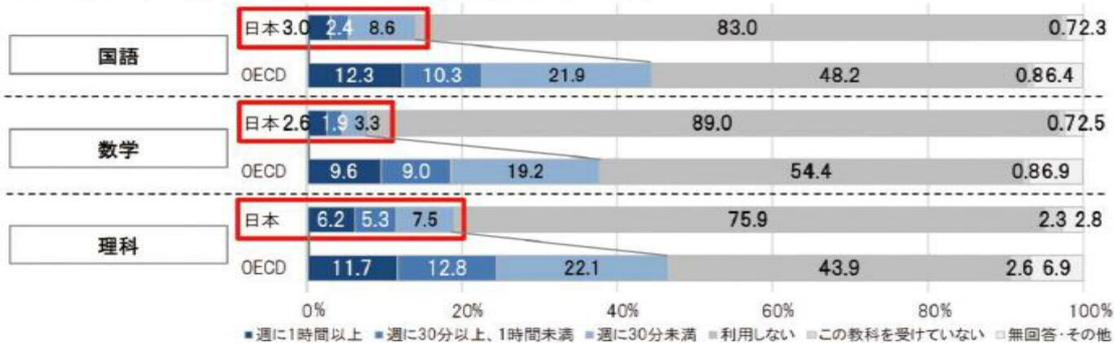
- ✓ 学校のICT環境整備状況は脆弱であるとともに、地域間での整備状況の格差が大きい危機的な状況



2 学校におけるICT利活用は世界から後塵を拝している状況

- ✓ 学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位

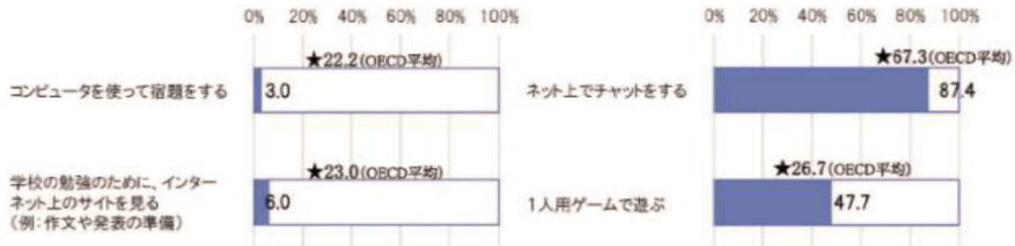
● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



3 子供の学校外でのICT使用は「学習外」に比重

✓ 学校外でのICT利用は、学習面ではOECD平均以下、学習外ではOECD平均以上

● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(出典: OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018) 「ICT活用調査」)

津市G I G Aスクール構想

17

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。

これまでの教育実践の蓄積

×

ICT

×

学習活動の一層の充実

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【『1人1台端末』ではない環境】

【『1人1台端末』の環境】

1 一斉学習 ～双方向型一斉授業の実現～

教師が黒板等を用いて説明し、子どもたちの興味・関心・意欲を高めることができます。

深化

子どもたち一人一人の反応を踏まえたきめ細かな指導等、双方向型の授業展開が可能になります。



2 個別学習 ～ニーズや学習状況に応じた個別学習の実現～

同時に同じ内容の学習をする授業を行います。
・一人一人の理解度等に応じた学習が困難です。

転換

一人一人の教育的ニーズ・理解度に応じた個別学習や個に応じた指導が可能になります。



3 協働学習 ～各自の考え等を共有しながら学び合う授業の実現～

グループ発表をさせることは可能であるが一人一人の意見を発信・共有するような授業展開が難しいです。

転換

全ての子どもが、情報の編集を経験しつつ、多様な意見を即時に共有し、共同編集ができます。



主体的・対話的で深い学びの実現

①津市e-Learningポータル

各学校コース、教育委員会コースのコンテンツ（学習動画、ワークシート等）を活用し、子どもたち一人一人の興味・関心に応じた学びが可能となる。また、学習に対するフィードバック機能や、ポートフォリオ機能を使うことで学びを深めることができる。



一斉学習

個別学習

②ロイロノート・スクール

意見や動画等が簡単に共有でき、プレゼンテーションを作成して自分の意見を発表。児童生徒の思考を可視化し、共有するための学習支援アプリを使って、授業のイメージを転換する。特にシンキングツールの活用によって、主体的・対話的で深い学びを実現させる。

⑤Web会議システム（Zoom等）

臨時休業、自宅待機等の非常時など、家庭にしながら、教師や友達とつながって学習を進めることができる。場所やデバイスを問わずに参加できるとともに、チャット機能等を活用した意見交流等も可能である。

④デジタル教科書

拡大表示、動画提示、書き込み、保存・表示、音声読み上げ、背景色・文字色の変更、反転、ルビ等の機能を使うことにより、様々な学習方法が可能となり、授業改善や特別な配慮が必要となる児童生徒等への学習等、より効果的な学習を展開することができる。



協働学習

③みんなの学習クラブタブレット

教師及び児童生徒が、インターネット上で、必要に応じて問題を選択し、ニーズに合った学習用プリントを作成し活用する。また、マルチメ解説動画や解答ページを使って、学習状況に合わせた支援につながり、個別学習を充実させる。

新学習指導要領の着実な実施 GIGAスクール構想の実現

「津市GIGAスクール構想実現のための手引き」より

おわりに

1 はじめに

児童生徒が社会で活躍する時代は、社会の在り方が劇的に変わる「Society 5.0」の到来、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、少子高齢化の加速化など、社会や産業の構造が大きく様変わりし、先行き不透明で予測することが困難な状況であります。

このような時代において、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、他人に対しても価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

こうした学びを実現するため、全ての児童生徒が1人1台端末を文房具のように活用するなど、ICTの効果的な活用とこれまで培ってきた教育実践とを両輪として進め、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていくことで、児童生徒一人一人に寄り添った指導、学習活動の充実を図り、論理的思考力、情報活用能力など、児童生徒の資質・能力をより一層確実に育みます。

Society 5.0時代の到来

Society 5.0とは、2016年に政府により策定された第5期科学技術基本計画の中で提唱され、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会（サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会）と言われています。

進化した人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety 5.0時代が到来し、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じつつあると言われています。

- 新学習指導要領の着実な実施
- GIGAスクール構想の実現

予測困難な時代を生き抜く力の育成
持続可能な社会の創り手となる人材の育成





令和3年度 中学校部会交流会 報告書

令和3年9月発行

津市P T A連合会
